



Title	Correlation Between Preeclampsia and Prevalence of Polymorphism of Angiotensinogen, Methylenetetrahydrofolate Reductase and Factor V, Prothrombin Genes Among Japanese Women
Author(s)	吉田, 敦
Citation	(2009-03-11)
Issue Date	2009-03-11
URL	http://hdl.handle.net/10069/24738
Right	

This document is downloaded at: 2019-06-19T23:16:11Z

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)乙第 12 号	氏名	吉田 敦
学位審査委員		主査	吉浦 孝一郎
		副査	前村 浩二
		副査	森内 浩幸
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、妊娠高血圧腎症の発症要因として関連が指摘されている遺伝子の多型頻度をもちいて、各遺伝子のアレル頻度と妊娠高血圧腎症発症の関連を検討しようとしたもので目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>これまでに妊娠高血圧腎症発症との関連が疑われているアンギオテンシノーゲン遺伝子 (AGT), methylenetetrahydrofolate reductase 遺伝子 (MTHFR), 第 V 因子, およびプロトロンビン遺伝子多型をもちいて解析を行っていた。妊娠高血圧腎症は、NHBPEP 2000 に従い診断して試料収集し、妊娠高血圧腎症を発症しなかった群との比較検討を行っており、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、AGT 遺伝子にみられる M235T 多型の T (トレオニン) アレルが、また MTHFR にみられる C677T 多型の T (チミン) アレルが妊娠高血圧腎症発症に関連有りとの結論を明らかにし、今後の妊娠高血圧腎症の分子遺伝学的研究の進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は妊娠高血圧腎症発症の分子遺伝学的研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			